

平成 29 年度 第2回事例検討会 を開催しました！

10月20日（金）に第2回事例検討会を開催しました！

テーマは「施設、在宅で役に立つ！摂食・嚥下のみかた」

今回の講師は言語聴覚士の田中千津子先生（京都中部総合医療センターリハビリテーション科）。摂食嚥下の専門家としてこれまで多くの嚥下障害に関わってこられたご立場から、介護現場での食事について解説していただきました。



安心、安全な食事のために、食べる前の口腔内や全身の姿勢についてしっかりみてあげることが大切だと田中先生。姿勢が変わるだけで水の飲みやすさが大きく変わることを実際に体験していただく時間もあり、大変分かりやすい内容でした。研修会の最後には、ご自身の経験も踏まえて、「その方の最後の一口になるかもしれないことも考えながら食事介助をして差し上げてください」と参加者の皆さんへのアドバイスをいただきました。

研修会後のアンケートより

- 食事介助方法に誤解していたこともあり、今回の話を聞き、考え方が変わった。
- わかりやすい内容で良かった。家族へ指導する際にも参考となった。
- 基礎からしていただけたので分かりやすかったです。
- 大変分かりやすいお話でした。職場に戻り、研修内容を伝えていきたいと思いました。
- 職場での利用者さんで嚥下で悩んでおられる方が多いです。よくむせたり、咳込みも多いので、今回の研修は職場で役立つと思います。
- 事業所のスタッフにそのまま伝えられる、分かりやすい内容でした。
- イでも昼食を食べてもらってるとき、ムセられる方が何人かおられますので、今日の講義を頭に入れてしたいと思います。
- 改めて口腔ケアの大切さを認識した。
- 口腔ケアの重要さがよく分かりました。食事の前の状態にも気を配りたいです。自分で歯磨きをしている方が多数なのですが、安心せずに見守りやケアをしたいです。
- きざみ食、ペースト食の方を食事介助していますが、やはりムセが一番気にかけています。とても分かりやすくヒントをいただきました。利用者さんが楽しくおいしく食につけるように支援、介助していきたいと思います。
- 日常の食事介助に即生かせる研修内容でした。

今回も地域の医療機関、介護施設より 20 名近くの皆様にご参加いただきました。たくさんのご参加、誠にありがとうございました。

～今後の研修会開催予定～

12月中旬頃
「ROM<関節可動域>」

来年2月頃
「筋力」

介護現場の皆様にもリハビリの視点を持っていただけるような内容を予定しています。

多数のご参加をお待ちしております！